

The Development and Direction of Japanese Music in Kansai before World War II: Through the Activity of KIKUTA Utao the First (初世菊田歌雄) and ONO Seiyu (小野消友)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-05-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: KASAI, Junichi, KASAI, Tsukasa メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00058201

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



戦前期関西における邦楽の発展とその方向性 — 箏曲家：初世菊田歌雄と小野清友の活動を通して —

人間社会環境研究科 客員研究員 (本学名誉教授)

笠井 純一

人間社会環境研究科 客員研究員

笠井 津加佐

要旨

初世菊田歌雄 (1879～1949) は、大阪における著名な箏曲家である。彼女は、箏曲を国民に普及させるため、箏曲五線譜を刊行し (1908)、役員を務める「当道音楽会」において、記譜法の統一と楽譜刊行を推進した。大阪女子音楽学校箏曲科の教員に就任し (1916)、田辺尚雄や藤田斗南らに呼びかけて「邦楽同志会」を設立し、大阪箏曲界に新風を吹き込んだ (1919)。さらに宮城道雄らを大阪に招き、「新日本音楽大演奏会」を開催している (1922)。菊原琴治らと共に、「箏曲振興期成同盟会」を結成し、箏曲を女学校の教科目とするよう、議会や文部省に陳情した (1934)。この運動は功を奏し、女学校の箏曲教員を養成する「箏曲音楽学校」が大阪に設立されて、歌雄も教員を務めた。彼女は生涯をかけて、「箏曲界の改革」を追究した。

歌雄は寡黙な人物であり、その思索を語る史料は少ない。しかし、彼女と志を同じくした岡山の箏曲家：小野清友 (1882～1944) の言動から、その方向性を窺うことが出来る。本稿では両者の活動と言説を紹介し、戦前期の大阪における日本音楽の方向性の一端を明らかにした。考察の結果、国民による、国民のための箏曲を志向するものであったことが確認できた。

キーワード

邦楽同志会, 箏曲振興期成同盟会, 箏曲音楽学校, 岡山音楽学校, 国民のための箏曲

The Development and Direction of Japanese Music in Kansai before World War II

: Through the Activity of KIKUTA Utao the First (初世菊田歌雄)
and ONO Seiyu (小野清友)

Guest Researcher Graduate School of Human and Socio-Environmental Studies
(Emeritus Professor at Kanazawa University)

KASAI Junichi

Guest Researcher Graduate School of Human and Socio-Environmental Studies
KASAI Tsukasa

Abstract

KIKUTA Utao the first (1879 - 1949) was a famous performer of *koto* (琴) and *jiuta* (地歌) in Osaka. She published *koto* stave for violin at 1908 to spread *koto* music to the public. In addition, she promoted

the unification of musical notation and the publication of a unified score in the Todo-Ongaku-Kai (当道音楽会), where she was the officer.

She became a teacher at the *koto* department (箏曲科) of the Osaka Women's Music School (大阪女子音楽学校) at 1915. She established the Hogaku-Doshi-Kai (邦楽同志会), calling to TANABE Hisao (田辺尚雄) and FUJITA Tonan (藤田斗南) and so on at 1919. Furthermore, to breathe fresh air into *koto* in Osaka, she invited MIYAGI Michio (宮城道雄) and YOSHIDA Seifu (吉田晴風) to perform and held a Shin-Nihonongaku-Dai-Ensokai, (新日本音楽大演奏会) at 1922. She organized the Sokyoku-Shinkou-Kisei-Domeikai (箏曲振興期成同盟会) with KIKUHARA Kotoji (菊原琴治) and petitioned the House of Representatives (衆議院) and the Ministry of Education (文部省) to make *koto* an official subject at girls' high schools at 1934. This action succeeded. As a result, Sokyoku-Ongaku-Gakko (箏曲音楽学校) was established in Osaka to train *koto* teachers. She also became a teacher at that school. Throughout her life she pursued reforming in the *koto* world. As KIKUTA Utao the first was reticent, there are few reference materials that enable one to study her thoughts about *koto*. However, we are able to do so in respect of her direction toward *koto* and her education in *koto* through the discourse of ONO Seiyu (1882-1944) in Okayama, who was her comrade. The purpose here is to introduce materials about their activities and discourses, and clarify a part of the direction of Japanese music in Osaka through that. As a result of our study, we were able to confirm that they intended "*koto* music to be for the people and by the people."

Keywords

Hogaku-Doshi-Kai, Sokyoku-Shinkou-Kisei-Domeikai, Sokyoku-Ongaku-Gakko, Okayama-Ongaku-Gakko, *Koto* music for the people

はじめに

本稿は、戦前期大阪で活躍した箏曲家：菊田歌雄（初世，1879～1949）の活動を通して、この頃の邦楽がめざした一つの方向性を、探ろうとする試みである。

菊田歌雄は、自らを語ることの少ない女性であった。そこで本稿では、彼女が残した若干の史料だけでなく、彼女と音楽上の交流があった岡山の箏曲家：小野清友（1882～1944）関連の史料も用いて考察する。菊田家関係史料は、三世菊田歌雄氏から提供していただいた。

なお本稿は、上海音楽学院で開催された第12回中日音楽比較研究国際学術討論会における研究発表（2017年9月15日）を基盤とするものである。発表原稿はその後、上海音楽学院から論文集（中文）に収めて刊行されたが¹⁾、日本国内での流通には限りがあり、また紙数の関係もあって論じ切

れなかったことも多く、2年余の日月を閲するうち追補すべき事実気づいたので、本稿では可能な限りこれらを補い、別稿として発表するものである。

1. 初世菊田歌雄の略歴

初世菊田歌雄（旧姓名：吉田ウタ）は、旧姫路藩江戸家老吉田常右衛門の子：常七の次女として、明治12年（1879）に大阪で生まれ、同18年、母の弟：菊田八重都（^{でえのいち}1849～1925）の養女になった²⁾。八重都は自ら、継山流箏曲³⁾、野川流三絃⁴⁾、胡弓の古典曲を教えただけでなく、バイオリンやピアノなど⁵⁾も習わせた（写真1・2）⁶⁾。また彼女は雅楽⁷⁾、琴、八雲琴なども習得している。

成人した歌雄は、明治38年に大阪で設立された当道音楽会の役員となり、同41年には大勾当となった。そのころ当道音楽会では、歌雄を中心に



写真1 バイオリンを弾く歌雄(左)



写真2 ピアノを弾く歌雄。
壁面に琴・阮咸などが掛かる。

記譜法の統一と楽譜刊行を企画したが、会員の一部から強い反対意見が出て中絶したらしい⁸⁾。歌雄はこの他にも、箏曲のバイオリン五線譜⁹⁾を作成・刊行している(写真3)。

大正4年(1915)4月、大阪女子音楽学校(明治39年創立)の箏曲科教員となった。この学校は相愛高等女学校に併設されたもので、歌雄は高等女学校の教員も兼ねている¹⁰⁾。また大阪市立盲学校において、大正9年から昭和6年(1931)まで、点字楽譜を使った教育を行った。

大正7年、「邦楽同志会」を結成し、田辺尚雄

(1883～1984)らを副会長に委嘱して、邦楽界の刷新をはかった¹¹⁾。同10年には第一回公開演奏会を開いたが、田辺はその場で「邦楽における将来」の題で講演している。同11年3月4日には、宮城道雄(1894～1956)、吉田晴風(1891～1950)らを大阪に招き、中央公会堂で「新日本音楽大演奏会」を開催した(写真4)。昭和8年(1933)には箏曲を採譜し、当道音楽会から楽譜を刊行した¹²⁾。

昭和9年、菊原琴治(1878～1944)らと共に、「箏曲振興期成同盟会」を開催し、箏曲を女学校



写真3 「八重ころも」楽譜表紙。
(大阪府立中之島図書館蔵)



写真4 「新日本音楽大演奏会」記念写真(1922年、於大阪中央公会堂)。
前列左3人目から、菊田八重都、歌雄、田辺尚雄、宮城道雄、1人置いて吉田晴風。2列目、歌雄と田辺の後ろ：大村恕三郎。



写真5 文部省に陳情の検校たち(1934年)。
前列左3人目から、中橋暁夢、山本芳治(代議士)、上田孝吉(同)、小野清友、菊原琴治、菊平琴声。
2列目左3人目から、歌雄、菊沢松風、1人置いて菊溝森久。

の科目にするよう、文部省・衆議院などに陳情した(写真5)。陳情は翌年に認められたので、教員養成のため、当道音楽会に箏曲音楽学校が設置され、歌雄はその教員となった。昭和24年、老衰のため71歳で死去した。

2. 菊田歌雄の音楽活動—その背景と特色—

歌雄の養父：菊田八重都(写真6)は大阪箏曲界の長老であったが、開国以来、日本に西欧文明が流入し、西洋音楽が学校の正科となって普及する状況を目のあたりにして、日本音楽を守るために思考をめぐらした。彼は歌雄に西洋音楽を学ばせるなど、新時代に対応が可能な教育を施す一方、継山流箏曲伝授書を和漢の古典籍を引用して大改訂し、歌雄に与えたのである¹³⁾。洋楽の背景に西欧文化があるように、邦楽にも學術の裏付けが不可欠であり、それなくしては伝統の尊厳は守れないと考えたのであろう。少年のころ大阪の懷徳堂で儒学を学んだこと¹⁴⁾が、彼の思想を育んだのではなからうか。

このような養父に育てられた歌雄は、高等教育を受けたわけではないが、漢籍を好んだ。『琴経』

を抄出して「弾琴鑑戒」という紙片を印刷し、弟子に配布している。

彼女の箏曲活動の概略は前節にも記したが、ここでは彼女の演奏活動を知るため、『三曲』『都山流楽報』等の雑誌記事、『南木芳太郎日記』¹⁵⁾の記述、菊田家所蔵写真を参照して、大正期後半から昭和11年頃まで¹⁶⁾の一覧表を作成した(表I、後掲)。

表Iから、彼女の活動はあくまでも大阪中心であったことがわかる。ただ近畿圏だけでなく、中



写真6 菊田八重都肖像。

国・四国、山陰など西日本での活動が知られ、海外（青島）に一度出かけたこともある。人脈としては、都山流宗家や星田一山ほか、尺八演奏家との関係が深い。また学校関係の演奏会活動にも特色があり、自ら教壇に立った大阪市立盲学校等だけでなく、大阪医科大学（現大阪大学）、関西大学の尺八部（都山流）の演奏会に積極的に出演している。ただ昭和11年以降¹⁷⁾は活動が少なく、この頃から病魔に悩まされた¹⁸⁾と推測される。

以上のように彼女の演奏活動は比較的地味ではあるが、大阪在住の音楽評論家：藤田斗南（1891～1952）が残した次の談話は、同時代人として彼女をよく理解し、特色を伝えるものである。

古典、楽譜、新（日本音楽）運動、学校教育、どれもが箏曲界に必要な仕事ですが、それを併せて持ち続けた菊田歌雄さんは、斯道の宝でありました。¹⁹⁾

しかし歌雄は、自らを語る事が極めて少ない女性であった。そこで我々は、歌雄と音楽上の交流があった岡山の箏曲家：小野清友の言説などから、彼女がめざした方向性を探してみたい。

3. 小野清友の略歴

小野清友（本名：又次郎。写真7）は明治15年、



写真7 小野清友肖像
（『都山流楽報』224, 1928年による）。

岡山県都窪郡常盤村（現、総社市）で生まれた。同22年から福田絹寿（葛原勾当の門人、～1906）に生田流箏曲を学び、大阪の菊塚檢校のもとでも研鑽し、同35年に岡山に出て、翌年には音楽奨励会（大正2年、関西音楽指針会と改称）に入会した。その後、関西音楽指針会の理事（会長相当）となり、大正10年には法人の認可を受けた。

大正5年から同10年まで、就実高等女学校の教員を勤めた。同11年には、県知事の認可を受けて「岡山音楽学校」を創立し、校長となった。菊田家に残る「岡山音楽学校創立趣意書・同規則」²⁰⁾には、予科1年、本科4年、研究科2年の詳細なカリキュラムが記されている（表Ⅱ）。このカリキュラムは、田辺尚雄が『箏曲』第2号（昭和12年、後述）で述べた音楽学校の構想²¹⁾を先取りするもので、昭和10年に設置された大阪の「箏曲音楽学校」カリキュラムにも、影響を与えたのではないと思われる。小野は、岡山音楽学校開校式に宮城道雄の直弟子：砂崎澄江（岡山出身）を招いた²²⁾。また昭和2年には、県立盲学校の嘱託となっている。

大正11年から翌年にかけて、彼は『三曲』誌上に原稿を寄せ、箏曲界の改革を強く主張した²³⁾。同13年には『都山流楽報』の取材を受け、改革への思いを語っている²⁴⁾。このころの小野の活動はめざましく、「岡山音楽会館」の建設（大正13年）、「大日本箏曲会連盟」の設立（昭和3年、大月忠道と共に）などが挙げられる。田辺尚雄によれば、同連盟は女学校教育に箏曲を取り入れるよう運動するものであった²⁵⁾。

昭和9年2月11日、大阪市の中央公会堂で開かれた「箏曲振興期成同盟会」に出席し、賛成演説を行った。同会は、「政府は日本在来の音楽を保護し、かつ学校の教科用となすべき途を講ずることを求める請願を議決した²⁶⁾。小野は陳情団に加わって上京し、22日には鳩山一郎文相を文部省に、23日には秋田清衆議院議長を公邸に訪ね、日本音楽の振興を訴えている²⁷⁾。その後、衆議院は請願を採択し、斎藤実首相に「意見書」を送付した²⁸⁾。「大日本箏曲会連盟」は同年11月に演奏大

表Ⅱ 岡山音楽学校のカリキュラム

学年	予科		本科								研究科			
			1年		2年		3年		4年		1年		2年	
学科目	課程	時数	課程	時数	課程	時数	課程	時数	課程	時数	課程	時数	課程	時数
修身	人倫道德の要旨及作法	2	同左	2	同左	2	同左	2	同左	2	同左	2	同左	2
国語	読方、綴方、書方、盲人には点字を授く	3	同左	3	同左	3	同左	3	同左	3	同左	3	同左	3
楽器使用法	楽器取扱方調子の合方	6												
箏	平易なる歌曲	11	初伝物	11	初伝及中伝物	11	中伝及奥伝物	11	同左	10	同左及秘曲	8	同左	8
三絃			初伝物	6	初伝及中伝物	6	中伝及奥伝物	6	同左	5	同左及秘曲	5	同左	5
音楽教授法								箏、三絃の教授法	2	同左	2	同左	2	2
作歌作曲法										作歌及作曲法	2	同左	2	2
尺八														
胡弓														
バイオリン														
体操	体操及遊戯	2	同左	2	同左	2	同左	2	同左	2	同左	2	同左	2
計		24		24		24		24		24		24		24

備考：尺八、胡弓、バイオリンは希望者に限り随意科目としてこれを授ける。

会・理事会・総会を開き、同連盟が「期成同盟会」の事業を継承し、再度上京して請願することを決議した²⁹⁾。田辺はこの時も、招かれて講演している。昭和10年2月、彼らは再び上京した。藤田斗南によれば、小野は松田源治文相に対して「日本

の音楽は差別的待遇を受けている」と訴え、松田を説得したという³⁰⁾。衆議院は同年3月、「日本音楽を女学校教科目に編入する建議書」を議決し、岡田啓介首相に送付した³¹⁾。一連の流れを見れば、この運動は小野が先鞭をつけ、関西の箏曲



写真8 演奏会記念写真（年未詳）。

左右の花輪に、「祝 菊田先生江 小野清友」と立札が見える。
前列左5人目、歌雄、4人置いて小山嘉代野。
第2列左4人目から、小野清友、大月忠道、1人置いて星田一山。

家達や田辺がこれに賛同して動いたものといえよう。

昭和12年には、関西音楽指針会の機関誌『箏曲』を創刊した。この雑誌は第1巻2号までの刊行が確認できるが³²⁾、その後は未詳である。同19年、病気のため63歳で死去した。

4. 小野清友の演奏活動

続いて小野清友の演奏活動に言及したい。但し、小野は大月忠道(1895～1962)を始めとする岡山の箏曲家・尺八家や、東京・大阪・京都等の箏曲家等との交流が深かったと思われるので、表Ⅲ(後掲)には「主催者／共演者」の欄を設け、また小野を中心に設立された「岡山音楽会館」関係の記事なども採録した。

小野は自ら「旅行好き」と語っているが³³⁾、演奏活動の中心はやはり岡山を中心とする中国地方で、台湾に二回、澎湖島へ一回招聘された³⁴⁾。他は、名古屋での「全国箏曲聯盟演奏会」が目立つ程度である。しかしながら小野の本領は、著名な箏曲家を岡山に招き、彼らと交流を深めていったことである。表Ⅳに明らかなように、大阪の中平福之郎・菊原琴治、東京の今井慶松・山室千代子・佐藤美代勢・富崎春昇、京都の津田清寛・坂本音次郎らをはじめ、生田流・山田流の別を問わず、主催する「関西音楽指針会」に招いたのである。この人脈は昭和3年以降、「箏曲聯合」あるいは「箏曲聯盟」結成の核となった。小野が大月忠道と共に設立した「大日本箏曲会連盟」(昭和3年)は、おそらくこれらの会と同一であろう。一連の動きは、さらに昭和9年の「箏曲振興期成同盟会」結成と、文部省・議會等への請願活動へと発展していくのである。大阪の菊原琴治との関係は殊に緊密で、表Ⅳにも4回登場する。

「箏曲を女学校の正科に」しようとする広範な運動は、直接には大阪の当道音楽会が領導し、その成果としての「箏曲音楽学校」も大阪に設立されたが、運動の中核には常に小野がいた。彼なくしては、成り立ち得なかった事業だったのである。

このような活発な対外活動とは異なって、小野の岡山での活動には次第に翳りが見えてくる。

岡山は著名な箏曲家を輩出した地だが、ここでは大月忠道と小山加代野(1881～?)の二人を挙げ、小野の活動と対比させてみたい。大月は岡山県吉備郡に生れ、15歳で失明して箏曲の道に入り、22歳のとき大阪に出て菊武祥庭や菊塚検校に就き、さらに米川親敏にも学んだ。仁康会に入会して岡山に組織を作り、また「学修会」を組織し、岡山女子職業学校教員となった³⁵⁾。昭和3年には『世界共通 五線式箏曲譜』を出版し³⁶⁾、菊田歌雄の作曲譜も収録している。

小山は岡山県都窪郡に生れた。小野清友とは一歳違いの同郷人である。9歳から箏曲を始め、14歳で西山徳茂都に師事した。さらに大阪に出て菊塚大検校(初代)に就き、初代歿後は二代菊塚の下で研鑽を積んだ。大正3年、当道音楽会岡山支部長に任じられ、これ以前の大正元年から就実女学校教員を続けた。大正14年に大月が結成した「岡山学修会」の幹事も務めている³⁷⁾。

このように、小野・大月・小山の三者は、ともに大阪の菊塚門人であったことが注目される。ま

表Ⅳ 小野清友が演奏会等で交流した箏曲家(岡山以外)

元号	年	月	日	会 名	氏 名	住所	流派	会場等
大正	11	10	15	関西音楽指針会	中平福之郎	大阪	生田	岡山
	14	4	2	関西音楽指針会	今井慶松	東京	山田	岡山
					山室千代子	東京	山田	
15	12	5	三原緑会	中島檢校	兵庫	生田	広島	
昭和	3	11	3	箏曲聯合 演奏会	菊原琴治	大阪	生田	岡山
					菊武祥庭	大阪	生田	
					津田清寛	京都	生田	
					佐藤美代勢	東京	山田	
	5	11	23	全国箏曲聯盟 演奏会	富崎春昇	東京	生田	名古屋
					菊原琴治	大阪	生田	
					佐藤美代勢	東京	山田	
					津田清寛	京都	生田	
					坂本音次郎	京都	生田	
	8	11	22	箏曲会聯盟 演奏会	中川信次	大阪	生田	岡山
富崎春昇	東京	生田						
9	2	11	箏曲振興期成同盟会	菊原琴治	大阪	生田	大阪→東京	
				菊田歌雄	大阪	生田		
				菊澤森久	兵庫	生田		
				菊平琴声	大阪	生田		
				井出鶴声	兵庫	生田		
10	2	7	文部省・議會等請願	菊平琴声	大阪	生田	東京	
菊澤森久	兵庫	生田						
10	5	5	関西音楽指針会	菊沢松風	兵庫	生田	岡山	
				菊沢松風	兵庫	生田		
11	5	24	川端清井郷土演奏 箏曲大会	今井慶松	東京	山田	岡山	
					中能島欣一	東京	山田	

た大月と小山は「学修会」で、小山と小野は就実女学校の教員として、小野と大月は「大日本箏曲聯盟」の同志として、それぞれ浅からぬ関係にあった。

しかし小野と大月は、昭和2年頃までは同じ演奏会に出演しているが、それ以降は関係が希薄になるようである。昭和6年11月、同7年2月の岡山放送局ラジオ放送でも、両者は別日に出演しているし、小野の関西音楽指針会にも大月の出演は記録されない。大月は「大道派」を結成して演奏会を開く一方、和気高女・片山高女等の箏曲部を指導している。

また小野と小山は、昭和10年頃までは演奏会で同席しているが、同11年11月1日には、小野が関西音楽指針会（岡山市公会堂）、小山が当道音楽会岡山県支部（高松町高松倶楽部）を、別々に開いている。また不思議なことに、小野の「岡山音楽会館」（大正13年竣工）は昭和4年までは頻繁に使用されるが、それ以降は指針会演奏会すら他館で開かれることである。指針会の機関誌『箏曲』第2号（昭和12年）によれば、「指針会の建てる音楽会館が、秋には会の手に戻る事」³⁹⁾とあるの

で、会館は長く人手に渡っていたらしい。さらに昭和16年11月の指針会秋季演奏会は、「元音楽会館」で開かれている³⁹⁾。

5. 菊田歌雄と小野清友の共通要素

菊田歌雄と小野清友は、その性格や行動などに、大きな差異のある箏曲家である。しかし両者は、箏曲家として意外な共通点を持っていた。次の表Vは、二人の経歴などから共通する要素をまとめたものである。

学校教育については、両者とも高等女学校・盲学校での教壇経験があり、新しい音楽学校の創立にも関わっている。両者とも、学校における楽譜を用いての邦楽教育が、最も効果的であると確信していた。なお先述のように、大阪における「箏曲音楽学校」創立（昭和10年）にあたっては、岡山音楽学校の制度が参考にされた可能性がある。小野は『箏曲』第1号（昭和12年）で、この学校を「新時代の要求する 箏曲音楽学校」と高く評価した。

「流派の社中」の項にみえる、菊田歌雄の「邦

表V 菊田歌雄・小野清友の共通要素

共通要素	菊田歌雄	小野清友
教育（教員）経験		
高等女学校	相愛高等女学校	就実高等女学校
音楽学校	大阪女子音楽学校／箏曲音楽学校（1935年、創立）	岡山音楽学校（1922年、創立）
盲学校	大阪市立盲学校	岡山県盲学校
流派の社中		
	邦楽同志会（1918年、結成）	関西音楽指針会（1921年、法人化）
共通の知己		
田辺尚雄	邦楽同志会副会長（1918年）、講演会講師（1921年）	『箏曲』に寄稿（1937年、1,2号）
中尾都山	合奏、『都山流楽報』記事「箏曲家訪問」	『都山流楽報』記事「箏曲家訪問」
大月忠道	『世界共通五線式箏曲譜』（1928年、田辺序文）に歌雄の作曲を収録	「大日本箏曲会連盟」の立ち上げ（1928年）
新日本音楽運動との関わり		
	「新日本音楽大演奏会に、宮城・吉田他を招く（1922年、於中之島公会堂）」	岡山音楽学校開校式に宮城の弟子を招く（1922年）
箏曲振興期成同盟		
1934年	集会で伴奏（於中之島公会堂） 陳情に上京	集会で賛成演説 陳情に上京、弁舌を振う
1935年		陳情に上京、弁舌を振う

楽同志会」は、次節でも触れるように、もともと箏曲家だけの集団ではなく、洋楽家や研究者・教育者を交えた、邦楽改革のための組織であった。小野清風の「関西音楽指針会」は、彼が創設した会ではないが、会派・流派・地域に関係なく誰でもが参加でき、会長は総会で選出され、任期の間だけつとめるといふ、当時としては大変進歩的な会であったようである⁴⁰⁾。両者の軌跡は、結果として異なったものであったが、それぞれが目指したところは、近似していたのではあるまいか。次に両者の言説をとりあげ、方向性を探してみたい。

5. 小野清友・菊田歌雄の言説

本節では、両者の言説や談話を紹介する。下線は各自の見解や実践を記した箇所、波下線は改革すべき現状を記した箇所である。

- ①. 小野：一般民衆が音楽的に目覚めて来たのであります、従つて我々専門家も（中略）これ等民衆を指導するだけの覚悟が必要だらうと思ひます、それには作曲、演奏、楽理と云ふ様に分業的に研究して行く事が最も当を得た事で、社会的には個人教授も大切であるが、多くの民衆を対手にするには、学校組織にするのが最も捷徑であらうと思ひます。⁴¹⁾

ここで小野が「一般民衆」と言うのは、「国民一般」の意味だと思われる。その教育には、学校教育が最も適している、と述べている。

- ②. 小野：一般的と云ふ処に日本音楽としての習得者も多い理屈で、飽迄も箏曲は日本音楽として一般通用のものとして進歩させたいのです。（中略）全日本国土に広がつておる此の箏曲の道は整頓していない証拠で、之れが代表的日本音楽だなどと云ふのは些かお恥かしい次第と云はなければなりません。⁴²⁾

ここで小野が言う「日本音楽として一般通用のものとして進歩させたい」の意味は、「日本（国民一般のための）音楽として進歩させたい」という意味かと思われる。

- ③. 小野：世の中の進歩に伴ひまして、箏曲界

も改良進歩はしてゐますが、その教授機関に至りましては旧慣墨守で因循、姑息、不規律、不統一なもので、その幼稚な教授方法の爲めにどれだけ習ふ人達に不利不便を與へて居るでせう。私はこの事を想ひまして微力乍ら奮然蹶起いたしまして、岡山音楽学校を創設いたしましたのであります、時代に適應する善良なる箏曲家の養成に聊か尽してゐる次第であります。⁴³⁾

小野は、箏曲教育の現状である「因循、姑息、不規律、不統一」を批判し、それらを克服するために、「岡山音楽学校」を創設したと語っている。「岡山音楽学校創立趣意書」⁴⁴⁾の中にも、これと同趣旨の文が存在する。

小野はさらに、箏曲家の全国組織をつくり、地歌振興を図ろうと考えていた。昭和3年の「地唄振興に就て」と題する一文である。

- ④. 小野：一大地唄研究会なるものを大組織の下に拵へて、普く朝野の音楽家、音楽識者、地唄界各地の代表的権威者、作曲家、作詞家、学者、文芸家、教育家等各方面に亘りて会員を網羅し、会内に調査機関を作つて地唄音楽の振興に関するあらゆる調査を分担研究して成案を得れば統一したる箏曲界に実行せしめること。

全国の箏曲界を統一して、教授曲目の順序、許金の一定、師匠試験制度の制定等地唄教授に関する従來の慣習、定めを現代的に変更して行くこと。⁴⁵⁾

具体的方策として、小野は東京、京都、大阪、名古屋、中国、九州などの代表的箏曲家を流派に関わりなく集め、第一回の準備会で地歌振興の原案を作成し、「全国箏曲家大会」（第二回）を京都に開いて原案を審議・決定し、大規模な振興運動を起こそうというのである。この構想の延長上に、「箏曲振興期成同盟会」の結成と運動が展開したといつてよい。

一方の菊田歌雄も、既に大正8年頃、同じような構想を持ち、実施に移していた。

- ⑤. 菊田：五年ほど前でした、邦楽殊に箏曲界

が古いことばかり墨守いたしてゐるのが余り無気力の様に感ぜられましたので、中田清吟、楯城護、川端米逸さんなどの箏曲家に、洋楽家の菅井重五郎、大村恕三郎、杉江泰一郎さんなどや、藤田斗南さんなど、共に邦楽同志会を組織いたしましたして、副会長に田辺尚雄、宮嶋茂次郎の二氏にお願ひして大阪の箏曲界に新しい風を鼓吹することに努めました、宮城道雄さんをお招きして中央公会堂で新日本音楽の大演奏会を開催したり、花々しい活動を自分乍ら致しましたが、新しい事と云ふものは善悪に係らず反対される大家方が沢山御座いまして、いろいろと迂余曲折を経ましたが、今日では妾の門下と、妾の真意を御了解下さいます少数の方だけで真剣に新箏曲を研究と宣伝をいたして居ります。⁴⁶⁾

菊田歌雄も箏曲界の改革を志し、演奏家・研究者・教育者・評論家などに協力を求めて「邦楽同志会」を設立した。しかしこの会は余り進展せず、数年で小規模になったようである。

- ⑥. 菊田：妾はいつの演奏会でも新箏曲と同時に古いものを発表して居ります（中略）、現在の若い方々には余り現実主義で、古い物は捨てる新しいものは研究せず唯流行的な素人受けのものばかり、自分の趣味も個性も顧みず、時俗を追ふばかりな商売主義の人達が多いのは、嘆はしいことでは御座いますまいか。（中略）尺八の方は楽譜で教授されますので進み方も早く、曲のひろまりますのも速やかで御座いますが、箏曲界では楽譜に大反対の方や、思ひ思ひの楽譜で勢力争ひが初まつたり、混乱とした有様は残念に存じます。妾は小学生にも分る世界的な五線の本譜で数年前から教授いたして居ります。⁴⁷⁾

菊田は箏曲界の現状を嘆きつつ、自身の方針を貫く姿勢を示し、かつ楽譜による箏曲教授の有効性を語っている。古曲・新曲に対する姿勢は小野も同様で、次のように語っていた。

- ⑦. (小野)氏が音楽に対する思想は「古曲を貴ぶ、古典をよく味つてそれから新曲に手を

染めて行く。元より時代の変遷に適合していく新日本音楽を肯定する訳であるが、それは先づ古いものを充分理解して消化してからでなければいけないと謂つて居る。⁴⁸⁾

以上の言説等によって、両者が何を問題と考え、どのように改革しようとしていたのか、その大略が判明する。

6. 菊田歌雄・小野清友がめざしたもの —むすびにかえて—

菊田歌雄と小野清友は、昭和9年の「箏曲振興期成同盟会」で同志として活動したが、実はそれ以前から交流があった。

まず、本稿で度々言及した「岡山音楽学校創立趣意書／同校規則」（同校は大正11年設立）は、恐らく小野から菊田に送られたものであろう。両者は「期成同盟会」以前から、箏曲教育は学校で行うべきだとの共通認識を持っていたのではなからうか。

また、写真8には、大阪の菊田歌雄・星田一山（1894～1968）らだけでなく、岡山の小野清友・大月忠道・小山嘉代野が並んで写っている。垂れ幕には当道音楽会の紋章が見え、左右には「祝 菊田先生江／小野清友」と記した花輪が二基置かれている。場所は恐らく岡山音楽会館と思われる⁴⁹⁾、年代は小野・大月の間が疎遠になる昭和2、3年以前であろう。菊田歌雄と小野清友の両者は、大正期後半から緊密に情報を交換しつつ、演奏活動⁵⁰⁾などで積極的に交流していたものと思われる。

両者は伝統を守りつつ、宮城道雄の「新日本音楽」など新しい要素も加味して、国民が受け入れ易い箏曲を、育てたいと思っていた。そのために様々な不統一を克服し、楽譜を用い、学校における箏曲教育が最も効率的であると考えて実行に移した。小野が五線譜をどう考えていたかは明らかでないが、岡山におけるかつての盟友：大月忠道が『世界共通五線式箏曲譜』（昭和3年、序文：田辺尚雄）を刊行しているの、小野も同様の方向性を持っていたとみてよからう。

筆者らは、彼等が目指したものを、国民による、国民のための箏曲であろうと推定する。ここで敢えて「国民音楽」と呼ばないのは、昭和6年以降に盛んに唱えられた、「(国家中心の)国民(動員のための)音楽」と峻別するために他ならない。いわゆる「国民音楽」運動は、邦楽を中心とするものではなく、洋楽家らが中心となった運動で、「新日本音楽」の一部を取り込んだものであった⁵¹⁾。一方、菊田歌雄や小野清友等の基盤は、あくまでも箏曲・地歌などの邦楽にあり、これに教育制度や教育方法など洋楽の長所を取入れて、国民に普及させようとするものである。彼等がこういった発想を持ったのは20世紀の第一四半期であり、国粹主義が未だ跋扈しない時代であった。彼らの活動は、「国民音楽」運動に先行するだけでなく、全く別の方向性を持っていたといえよう。

小野は『都山流楽報』の取材に答え、次のように述べている。

音楽は人心の緩和と品性の陶冶であり、家庭にあつては音楽によつて和楽を来し、之を大にしては国家社会の平和となる所以であります。⁵²⁾

彼等は、単に日本伝統音楽の尊重を主張したのではなく、その教授・学習によって、家庭の平穏や国内の平和をめざそうとしていた。藤田斗南が的確に語ったように⁵³⁾、菊田歌雄らの運動の中心は「古典(の尊重)、楽譜(による教授)、新(日本音楽)運動(などの箏曲改革)、学校教育(における箏曲の教授)」であり、もし時局に合った作曲⁵⁴⁾などを要請されたとしても、戦意高揚を目標とする日本音楽の振興とは、距離を置くものであった可能性が高い。

【注】

- 1) 笠井純一・笠井津加佐(監訳:安部聡一郎, 翻訳:姚晶晶)「20世紀前半期关西地区日本音乐的发展与其方向—通过歌曲家:菊田歌雄(第一代)和小野清友的活动」(赵维平主编『第十二届中日音乐比较研讨会论文集』, 2019. 11)。
- 2) 笠井津加佐・笠井純一「大阪芸能史上に箏曲家:菊田歌雄が果たした役割について」(『人間社会環境研究』33, 2017)。
- 3) 明治27年(1894), 歌雄は八重都から、継山流の「箏秘曲伝授巻」を授けられた。
- 4) 明治33年, 歌雄は八重都から「野川検校流三絃系統序」を授けられた。
- 5) バイオリンの師は黒田米太郎(恣琴), ピアノの師は浜田キヌであった。浜田は『本派本願寺学校一覽』(1933)に、相愛高等女学校教員として名が見える。
- 6) 三世菊田歌雄氏所蔵写真(Noは、笠井純一・笠井津加佐編「三世菊田歌雄氏所蔵史料仮目録」の番号による)。なお本稿掲載写真は、特に断らない限り菊田家史料である。
- 7) 雅楽の師は、大村恕三郎(1869~1952, 大阪女子音楽学校主事)であった。
- 8) 黒田米太郎・菊田歌雄著『新撰箏曲全集』第1集(大阪開成館, 1909), 第2集(同, 1910)は五線楽譜である(国立国会図書館デジタルアーカイブによる)。当道音楽会の事業との関係は未詳。
- 9) 箏曲のバイオリン五線譜については、注2)前掲論文の表2を参照。歌雄が黒田と共に著した楽譜は、「八重ころも」「さくらがり」「熊野」の3冊(1908~1909)である。
- 10) 「履歴書 昭和十五年十二月 菊田ウタ」(菊田家史料)には、「大正四年四月ヨリ 相愛高等女学校 大阪女子音楽学校ノ箏曲科講師トナリ現在ニ至ル」とある。また大正15年(1926), 歌雄は相愛高等女学校嘱託教諭として、西本願寺執行長:本多惠隆から「在職十有余年」の表彰を受けている(菊田家史料)。
- 11) 『都山流楽報』187(1924)「箏曲家訪問記10菊田歌雄師」による。
- 12) 当道音楽会編『八千代獅子』(生田流箏曲教授用楽譜 第3編, 作譜者:菊田歌雄, 博信堂, 1933)などが菊田家に残る。なおその裏表紙には、「生田流楽曲統一賛成員」として、116人の箏曲家と3団体が名を連ねている。
- 13) 笠井純一・笠井津加佐「箏曲組歌伝授書の伝承と改訂—幕末・明治期における継山流箏曲伝授書を中心に—」(『東洋音楽研究』82, 2017)。
- 14) 「菊田八重都略歴」(菊田家史料)。
- 15) 大阪市史編纂所『南木芳太郎日記』一(2009), 『同』

1) 笠井純一・笠井津加佐(監訳:安部聡一郎, 翻訳:姚晶晶)「20世紀前半期关西地区日本音乐的发展与其方向—通过歌曲家:菊田歌雄(第一代)和小野清友的活动」(赵维平主编『第十二届中日音乐

- 二 (2011), 『同』三 (2014)。
- 16) 下限を昭和11年に設定した理由は、歌雄の活動がこの頃から目立って減じるためである。後述のように彼女は、この頃から体調が勝れなかったようである。
- 17) 昭和10年以降も、同15年12月8日「皇紀二千六百年記念邦楽同志会公演」を大阪軍人会館で開催し、歌雄は司会をつとめた。記念写真には出演者のなかで、ひとり中央の椅子に掛けた姿が写っている (No.72)。
- 18) 昭和15年10月6日、当道音楽会長から高津久子 (後の二世菊田歌雄) に「表彰状」が贈られた (菊田家史料)。表彰事由は、「師ノ病ニアヒ日夜之ガ看護ニ努ムル事永年、且ツ師二代リテ教授ヲ続ケタル其篤行ハ本会員ノ模範」であった。初世歌雄の罹病から、相当の年月が経過していることが推定できる。
- 19) 大阪中央放送局台本「菊田歌雄と新箏曲運動」(1950.3.31, 放送者:藤田斗南。菊田家史料)。なお、この台本は一部を省略して、藤田「名曲解題—箏曲と新邦楽」(上方郷土芸術保存会, 1956) に収録された。全文は、笠井純一・笠井津加佐「史料紹介 箏曲家:初世菊田歌雄関係史料」(『大阪の歴史』89, 2020) を参照。
- 20) 全文は、注19) 拙稿を参照。
- 21) 田辺尚雄「箏曲を中心とする学問(1)」(『箏曲』1-2, 1937)。田辺は「毎日朝の一時間を修養の時間、次の二時間を箏又は三味線の修行、午後の一時間が学科、それから後の二時間又は三時間を技術の練習時間とする」「修養の時間といふのは(中略) 師匠又は芸術家として世に立つ時の心得を凡て教へる」「土曜日の午前中は特別に科外講義の時間で、一般の常識、西洋音楽の鑑賞、英語其他外国語(之れは音楽に必要なもの丈け)」と述べている。小野のカリキュラムは、「国語」や「体操」を重視する点が特色で、かつ優れている。
- 22) 『山陽新報』1922.4.11付紙面「岡山最初の音楽学校 主として日本音楽教授」による。
- 23) 小野清友「邦楽教育に対する所感」(『三曲』19, 1923.1)。同「箏曲界の整理問題—日本音楽として進むに就て—」(『同』23, 1923.5)。
- 24) 『都山流楽報』180 (1924)「箏曲家訪問記4 小野清友師」による。
- 25) 田辺尚雄「民間の箏曲新運動—日本音楽史講話—」(『日本音楽』70, 1954)。その「事業」の一つに、「箏曲ヲ女学校ノ正科トスル為、各種ノ運動ト理解促進ノ方途ヲ講ズルコト」が挙げられている。
- 26) 「箏曲振興期成同盟会 昭和九年二月十一日開催(案内状)」(菊田家史料)。
- 27) 「日本音楽保護に関する請願 政府請願陳情上京報告」(1934.2, 菊田家史料)。
- 28) 1934.9.25「意見書」(請願文書表第二二一〇号 日本音楽保護ニ関スル請願 大阪市東区島町二丁目十二番地菊原琴治外九百八十七名呈出, 国立公文書館アジア歴史資料センター所蔵史料)。
- 29) 田辺尚雄「箏曲振興期成同盟—日本音楽史講話—」(『日本音楽』71, 1954) に引用された「箏曲振興期成同盟会報告」による。この時上京したのは、小野清友(岡山)を中心に、菊平琴声(大阪)、小松弴(名古屋)、菊壽森久(兵庫)、菊沢松風(同)の5人であった。
- 30) 藤田斗南「箏曲六十年史」(大阪芸文協会「なにわ拾遺」第1集, 1970)。但しこの談話は昭和26年、藤田死去の約1年前に記録されたものであり、小野清友を「大野セイユウ」とするなどの誤りもある。
- 31) 1935.3.25衆議院建議書(国立公文書館アジア歴史資料センター所蔵史料)。
- 32) 『箏曲』1-1(創刊号, 1937.3)は岡山県立図書館および東京藝術大学附属図書館に、『同』1-2(1937.5)は東京藝術大学附属図書館に所蔵される。
- 33) 小野清友「地唄振興に就て」(『都山流楽報』227, 1928.4)。
- 34) 「著名箏曲家略伝(四)—岡山 小野清友氏」(『都山流楽報』224, 1928.1)。
- 35) 『昭和前期音楽家総覧—『現代音楽大観』—』下巻(ゆまに書房, 2008)。
- 36) 大月忠道著『世界共通五線式 箏曲譜』(前川合名会社, 1928)(菊田家史料)。
- 37) 注35) に同じ。
- 38) 『箏曲』1-2(1937.5) p.33。
- 39) 「楽会消息:○虫明圭山氏(岡山)十一月十六日元岡山音楽会館に於ける関西音楽指針会主催の秋季演奏会に阿部角山、久山都好両氏と出演。」(『都山流楽報』391, 1941.12)。
- 40) 関西音楽指針会会長:名畑伸子氏のご教示による。
- 41) 小野清友「邦楽教育に対する所感」(『三曲』19, 1923)。
- 42) 小野清友「箏曲界の整理問題—日本音楽として進むに就て—」(『三曲』23, 1923)。

- 43) 注24) に同じ。
- 44) 注19) 拙稿参照。
- 45) 注33) に同じ。
- 46) 注11) に同じ。
- 47) 注11) に同じ。
- 48) 注34) に同じ。
- 49) 『都山流楽報』213 (1927.2) 巻頭口絵に、「黒沢 塲山師範昇格祝賀演奏会」(岡山市音楽会館, 大正15年10月23日)の記念写真が掲げられるが、背景となる柱配置や花輪の飾り方から、「写真8」と同一場所での撮影と判断できる。なお、この口絵写真には小野・大月の両人が、間に一人を置いて最前列に座っている。
- 50) 『三曲』『都山流楽報』などに掲げられた演奏会開催記事(予告・報告)は、むろん全演奏会を網羅したものではない。例えば、表Ⅲの昭和6年に見える記事は詳細だが、これらは『三曲』昭和7年2月号等の「岡山三曲通信」から採集したもので(*印)、各号巻末記事からは視えない密度である。歌雄と小野が共に出演する演奏会が、記事に洩れている可能性は十分にある。
- 51) 戸ノ下達也・長木誠司編『総力戦と音楽文化—音と声の戦争』(青弓社, 2008)、酒井健太郎「邦楽」と「洋楽」—1940年代前半の日本の音楽専門誌紙における「国民音楽」論—(『昭和音楽大学研究紀要』30, 2011)。
- 52) 注24) に同じ。
- 53) 注19) に同じ。
- 54) 菊田家に残る十五年戦争期の作品としては、「輝く日本」(1939.3)、「空の護り」(同)、「大和撫子」(1941.9)、「藤の花」(1943.2)、「御民吾」他6曲(「愛国百人一首」中の6首に曲を付したもの, 1945.5)などがあるが、戦争への積極性は感じ取れない。戦意高揚と最も関わるように見える「空の護り」の歌詞も、次の通りである(原文は平仮名のみ。適宜、漢字を補った)。
- 響くサイレン 空襲警報 立てひと声に 慌てずに 心静かに 火の始末 防毒準備 完全に 正しき規則 手練のもとに 一条乱れぬ 固めこそ 銃後我等 陣中よ 目覚めちようき (長期カ) 戦の前に
- 一方、敗戦直後の昭和20年9月、「人の道」(母の思ひ)他18曲が、堰を切ったように制作されている(三世菊田歌雄氏所蔵手書き楽譜)。楽譜の所々に注記がある通り、これらは『小学唱歌集』初編(1881)、第二編(1883)、第三編(1884)から、歌詞を適宜抜き出して作曲したもので、歌雄が初心に帰り、研鑽と教授に励もうとした心情をつぶさに伝えるように思われる。

表Ⅰ 初世菊田歌雄 演奏会出演等年譜

元号	年	月	日	記 事	会 場	出典
明治	33	5	20	第51回慈善共恵会(中尾都山と共演)	大阪・新町婦徳会場	大阪朝日5.18
	42	5	22	大阪家庭音楽会 慈善音楽会(バイオリン協奏)	大阪・中之島公会堂	「音楽界」2巻6号
大正	2	11	22	相愛会主催 第3回慈善音楽会(来賓)	大阪・北浜帝国座	「音楽界」159号
	8	11	23	京都絃洋会 慈善大演奏会	京都・県会議事堂	「音楽界」220号
	10	11	12	邦楽同志会演奏会	大阪・東区浪華小学校	三曲11月
	11	3	4	邦楽同志会主催 新日本音楽大演奏会	大阪・中之島中央公会堂	三曲3月, 写真54・79・80・129
		8	12	邦楽普及会第一回演奏会	大阪・天王寺公会堂	三曲8月, 9月, 写真70
		9	27	邦楽社主催 邦楽演奏会	大阪・青年会館	写真82
		11	4	邦楽鼓吹会	大阪・中之島中央公会堂	三曲11月
			25	関西箏曲界新人合同 演奏会	大阪・商品陳列所内衆楽館	三曲12月
	13	10	11	箏曲演奏会	大阪・市民館講堂	三曲11月
		12	7	(稚児桜改譜披露会:八重都)	大阪・新町演舞場	三曲14年1月
	14	4	5	香川支部 当道音楽会	高知県公会堂	三曲6月
				箏曲大演奏会(菊原・中川・菊田)	高松	楽報190
			23	邦楽大演奏会	大阪・新町演舞場	三曲5月
		7	26	三曲放送出演	大阪JOBK	三曲9月
		8	4	三曲放送出演	大阪JOBK	三曲9月

		17	三曲放送出演	大阪JOBK	三曲9月
		9 26	都山流未成社 演奏会	大阪・北区大江ビル	三曲10月
	15	1 3	三曲放送出演	大阪JOBK	三曲2月
		23	曲声会(上田流尺八)	大阪・聖天坂通り楽園	三曲2月
		3 29	三曲放送出演	大阪JOBK	三曲5月
		4 10	玲水会(都山流尺八)	大阪・北区大江ビル	三曲5月
		6 29	大阪女子大学会 音楽大会	大阪・中之島公会堂	三曲8月
		10 30	三曲放送出演	大阪JOBK	三曲12月
昭和	2	3 24	三曲放送出演	大阪JOBK	三曲5月
		6 4	上方芸術 演奏会	大阪・北陽演舞場	三曲6月,7月
		12	都山流銀簾会主催 大阪医大春季演奏会	大阪・基督教青年会館	楽報220,写真88
	3	3 10	大阪三曲名流聯合大会	大阪・朝日会館	三曲2月,4月
		6 9	第五回大阪医大銀簾会演奏会	大阪・大江講堂	楽報231
		10 21	都山流大阪幹部会主催 御大典記念演奏大会	大阪・朝日会館	楽報235,写真83
		12 16	永井郁子演奏会(19日退京)	東京	三曲4年1月
		21	当道友楽会故会員追悼会	大阪・朝日会館	写真84
	4	5 3	津田清寛作曲 発表会	京都市公会堂本館	三曲6月
		6 23	心琳会主催 故竹琳軒平松応山師追善演奏会	大阪・実業会館	楽報243
		7 20	つぼみ会	兵庫・芦屋仏教会館	三曲8月
		8 19	青島新聞社主催演奏会に出発(29日帰国)	青島	三曲9月
		9 5	永井郁子試唱会	大阪・美津野運動具店	大阪毎日9.6
		27	永井郁子女史邦語独唱会(28日も)	大阪市中央公会堂	プログラム
		10 13	津田清寛作曲 発表会	京都市公会堂本館	三曲11月
		11 22	第七回和楽会大演奏会	和歌山市公会堂	写真56
		12 7	星田一山司会 都之雨社研究発表演奏会	大阪・実業会館	楽報250,三曲12月
	5	1 12	都山流参与・参事及大阪幹部新年会	大阪・堂ビルホテル	楽報249,写真95
		3 24	大阪市立盲学校邦楽部 菊之会	大阪市盲学校講堂	三曲4月
		26	大阪市盲学校 楽友会	大阪・朝日会館	三曲4月
		5 10	昭和音楽協会 三曲演奏会	大阪・南地演舞場	三曲5月,6月
		18	当道音楽会本部主催 演奏会	大阪・朝日会館	三曲5月,南木日記
		6 7	深親寿山司会 寿会演奏会	大阪・朝日会館	楽報255,写真69
		10 17	都山流宗家主催 都山流第二十三回特別演奏会	松山市青年館	楽報259
		19	都山流宗家主催 都山流第廿四回特別演奏会	大分県公会堂	楽報259
		11 28	建部二山司会 関西大学音楽部都琳会演奏会	大阪・大江ビル奏堂	楽報260
		12 21	大阪同情週間 音楽会	大阪・朝日会館	三曲6年1月
	6	1 25	芸盟百人会 邦楽会	大阪・堀江演舞場	三曲2月
		2 22	大阪市立盲学校 和洋音楽演奏会	大阪・毎日新聞社楼上	三曲3月,番付
		4 12	和歌山和楽会	和歌山市商工会議所	三曲5月
		5 3	田中笠山司会 山西遞山昇格披露演奏会	大阪・大江ビル講堂	楽報264
		5 10	祝三十五周年 ツドヒ第二回発表会	神戸・県会議事堂	楽報266,写真78
		10 6	関西邦楽会	讃岐善通寺町富士見座	三曲11月
		11 15	謝恩 菊の会(大阪市盲学校)	大阪・大江ビル	三曲12号
	7	1 29	関西大学都琳会 第二回演奏会	大阪・大江ビル	楽報272
		3 19	蘭秋会主催 都山流尺八演奏会	大阪・大江ビル	楽報275,写真92
		3 22	上方郷土研究会主催 郷土芸術鑑賞会(繁太夫妹背の秋草・宮城曲)	大阪貯蓄銀行楼上(島の内)	楽報275,三曲4月
		4 3	西山極山主催演奏会	高知市堀詰座	楽報274
		4 16	都山流宗家主催 都山流第廿七回特別演奏会(春信幻想曲・舟の夢・花紅葉・御山獅子の三絃・薤露調の胡弓・和風楽の高箏)	鳥取市戎座	楽報275,276

	10	16	小西君山司会 ツドヒ第三回研究発表会	神戸・共立検演舞場	楽報284
	11	6	岐阜支部 当道会	岐阜市公会堂	三曲11月
		18	朝日同情週間 名流邦楽会	大阪・朝日会館公演場	三曲8年1月
		26	建部二山司会 関西大学音楽部都琳会演奏会	大阪築港高野山	楽報284,写真97
8	1	下旬	(箏曲統一楽譜出版の件で上京、各師匠を訪問)		三曲2月
	4	9	当道音楽会生田流箏曲譜出版記念大演奏会	大阪・朝日会館	南木日記
	5	14	当道音楽演奏会	姫路公会堂	写真74
9	5	19	当道音楽演奏会	大阪・新町演舞場	三曲6月
10	4	7	第二回新響会演奏大会	(未詳)	写真65
	4	14	松浦煖山昇格祝賀都山流尺八演奏会	三原劇場	写真105
	5	26	当道音楽演奏会	大阪・朝日会館	三曲6月
	6	19	(浅村重助氏と上京、中尾都山訪問、同夜帰阪)		楽報315
	10	5	加古川箏友会(箏曲音楽学校職員生徒共)12時より 楽集会(箏曲音楽学校員共)18時より	兵庫・加古川新公会堂 岡山市公会堂	三曲10月,11月 三曲10月,11月
11	5	11	箏曲音楽学校教職員・生徒の女声合唱付箏曲演奏	大阪JOBK	朝日5.11
		16	当道音楽演奏会	大阪・新町演舞場	三曲6月
	7	14	(南木芳太郎の依頼により、8月12日天王寺盆踊の作曲、振付:榎茂都陸平)		南木日記

表Ⅲ 小野清友・大月忠道 演奏会出演年譜 (岡山音楽会館等の記事を含む)

元号	年	月	日	記 事	主催者/共演者	会 場	出典
大正	11	4		小野、岡山音楽学校設立、認可			三曲8月
				小野、箏曲調査会のため、中国地方を歴訪			三曲8月
		10	15	関西音楽指針会大演奏会	小野清友/中平福之都	岡山・大正館	三曲10月
			月末	小野、視察旁々上京予定			三曲10月
		12	3	小野、上京(8日退京)			三曲12月
	12	1	13	月並会	中田□醉/絃:小野	岡山・薬師院客殿	三曲2月
		2	25	箏曲音楽会	岡山音楽学校	岡山・後楽園鶴鳴館	三曲3月
		3	11	新松風会	小原星山/小野・猪木	岡山・薬師院客殿	三曲4月
		4	15	故岡本中勾当追悼会	小野清友・若原孤山	岡山・大正館	三曲5月
		4	22	関西音楽指針会	小野清友	岡山・大正館	三曲5月
	13	9		小野、岡山市内山下30-12へ			三曲9月
		10	25	邦楽普及会(26日まで)	関西音楽指針会/大月・若原	岡山・音楽会館	三曲11号
		11	9	岡山狭霧会	黒沢場山/土倉検校	岡山・音楽会館	三曲12月
	14	1	22	春季大会	下中大勾当/小野・土倉	尾道・借楽座	三曲3月
		3	1	尺八普行会	久山襄山・小野・土倉	岡山・音楽会館	三曲3月
				大月、岡山市内山下元町5-35へ			三曲3月
			末	(今井・山室、大阪・岡山に出発)			三曲4月
		4	2	関西音楽指針会	小野清友他/今井慶松・山室千代子	岡山・音楽会館	三曲4月,5月
			5	みどり会	青木大検校/小野・中島	広島・畳屋町演舞場	三曲4月
			初旬	小野、台湾高雄市に出発			三曲4月
		5	23	小野清友検校 歓迎演奏会	小野・船田夫妻・中山他	台北・台湾日々新報社	三曲7月
		9	27	音楽会館落成一周年演奏会	関西音楽指針会/小野・大月	岡山・音楽会館	三曲10月
		10	25	四十周年記念 箏曲大会	司会:荒木、小野・土倉・大月	岡山・音楽会館	三曲11月
	15	1	13	管弦演奏会	久山襄山/小野・猪木	岡山・音楽会館	三曲2月
			17	昇格披露 孤山流演奏会	孤山流尺八家	岡山・音楽会館	三曲1月,2月
			23	土倉検校送別 箏曲演奏会	小野清友・土倉静夫他	岡山・音楽会館	三曲2月
		4	17	処女聯合 演奏会	司会:長瀬璋山	岡山・音楽会館	三曲4月,5月

		23	狭霧会	中尾都山／虫明圭山	岡山・音楽会館	三曲4月,5月
		24	関西音楽指針会 春季大会(25迄)	大月忠道／小山・荒木	岡山・音楽会館	三曲4月,5月
		7	小野、上京し東京盲学校に在宿			三曲9月
		10	9 関西音楽指針会	小野清友	岡山・音楽会館	三曲11月
		16	好楽園の会	司会:久山襄山	岡山・音楽会館	三曲10月
		23	黒沢場山昇格披露 演奏会	黒沢場山・小野清友・大月忠道	岡山・音楽会館	三曲11月,楽報213
		11	14 箏 処女演奏会	司会:長瀬璋山	岡山・音楽会館	三曲12月
		20	小西卓山昇格披露 演奏会	司会:小西卓山	岡山・音楽会館	三曲12月
		12	5 三原緑会	木村春水・小野清風・中島検校他	三原・関西音楽学校	三曲2年1月
昭和	2	4	10 圭林会	虫明圭山／小野・大月他	岡山・音楽会館	三曲5月
		9	小野、岡山市内山下30-7へ			三曲6月
		6	25 渡谷琴憲帰岡歓迎 演奏会	司会:大月忠道／虫明他	岡山・音楽会館	三曲11月
		10	2 岡山移住廿五周年記念 音楽会	小野清友／荒木・大月	岡山・音楽会館	三曲10月,11月
		15	都山流 岡山幹部会	野上・虫明・黒沢・長瀬・久山・小西他	岡山・音楽会館	三曲11月
	3	1	15 箏備会	小野・砂崎澄江・久山	岡山・音楽会館	三曲1月,2月
		3	21 故西山徳茂都師追悼 演奏会	司会:荒木小美	岡山・音楽会館	三曲4月
		4	8 在岡廿五周年記念 箏曲演奏会	林天留子	岡山・音楽会館	三曲5号
		5	6 孤山流漣会	松本梁山・佐藤蓉山	岡山・音楽会館	三曲5月,6月
			大月、五線式箏曲譜を刊行			三曲6月
		10	6 都山流岡山幹部会	虫明・木村・久山他	岡山・音楽会館	三曲10月,11月
		11	3 箏曲聯合 演奏会	関西音楽指針会,後援:岡山楽集会／菊原・菊武・津田・佐藤・植松・土倉	岡山・音楽会館	三曲11月,12月
	4	1	24 故小田峽山氏追悼 圭琳会	司会:虫明圭山	岡山・音楽会館	三曲2月
		3	24 岡山琴古会	永木鈴洞他	岡山・音楽会館	三曲4月
		4	14 渡谷開軒廿周年 琴友会	司会:渡谷琴恵	岡山・音楽会館	三曲4月,5月
		21	関西音楽指針会 演奏会	小野清友／猪木・林・小山・久山	岡山・音楽会館	三曲5月
		5	14 野上春山師謝恩 演奏会	久山襄山・小西早山	岡山・音楽会館	三曲6月
		10	15 (都山流)岡山幹部会	虫明・長瀬他	岡山・音楽会館	三曲11月
		11	17 孤山流開軒廿周年 紀年演奏会	若原孤山	岡山・音楽会館	三曲12月
	5	11	23 全国箏曲聯盟 演奏会	富崎・菊原・佐藤・津田・坂本・中川・小野他	名古屋市公会堂	三曲12月
		12	6 和気高女 箏曲演奏会	大月忠道・同校箏曲部員	岡山・和気高女講堂	三曲6年1月
	6	4	25 関西音楽指針会(26日迄)	小野清友・猪木一友・井上志楓	岡山・三友寺	三曲5月
		5	24 岡山三曲素人会	佐藤秀水・小西卓山・小野清友	岡山・医師会館	三曲6月
		6	21 あやめ会	猪木一友・佐藤秀水	岡山・薬師院客殿	三曲7月
		10	17 吉備管弦楽団 演奏会	虫明圭山・大月忠道・渡谷琴恵	岡山・北部教会	三曲11月
		11	14 岡山医大邦楽部演奏会	大月・堀・虫明	岡山市公会堂	三曲7年2月*
		15	関西音楽指針会	猪木・小野・秋山	岡山・薬師院	同上
		17	ラジオ放送	虫明圭山・荒木小美・大月忠道・堀御山	岡山放送局	同上
		22	ラジオ放送:山陽高女生童曲	大月忠道・黒沢場山	岡山放送局	同上
		22	秋季管絃演奏会	田村・虫明・佐藤・大月・歳森・上野・松田・堀	岡山鉄道倶楽部	同上
		12	5 和気高女 箏曲演奏会	司会:大月忠道／黒沢・長瀬璋山	岡山・和気高女	同上
		19	満州軍慰問箏曲演奏会	音楽指針会・北斗会・友楽会	岡山市公会堂	同上
	7	2	7 KK岡山局 開局一周年記念演奏会	小野清友他	岡山市公会堂	三曲3月*
		8	(同上)	虫明圭山・大月忠道他	(未詳)	同上
	4	16	来岡卅年記念 演奏会	小野清友／門下其他	岡山市公会堂	楽報277,三曲5月

	5	7	関西音楽指針会 演奏会 (8日迄)	小野清友・上松貞女他	岡山・三友寺	楽報277,三曲6月
	11	22	管絃楽団演奏会	大月忠道・渡谷琴恵・虫明圭山他	岡山市公会堂	三曲11月
8	2	25	片山女子高等箏曲部 演奏会	司会:大月忠道/箏曲部生徒	岡山・片山校講堂	三曲3月
	4	22	糸友会	司会:小野清友/其他会員	岡山・医師会館	三曲5月
	6	3	岡山医大 邦楽部会	虫明圭山・岡山医大邦楽部会員	岡山・深抵小学校講堂	三曲7月
	11	22	箏曲会聯盟 演奏会	富崎春昇・菊原琴治・小野清友 及岡山楽集会員	岡山・音楽会館 岡山 劇場	三曲10月,11 月,12月
9	2	11	箏曲振興期成同盟会	大阪当道音楽学会、小野清友、 井出錦泉(姫路)	大阪・中央公会堂	三曲3月
	11	5	好楽園主催 三曲合奏会	久山浦山・大月忠道他	岡山・長崎会館	三曲12月
10	1	13	関西音楽指針会 演奏会	小野清友・林天留・小山加代・秋 山他	岡山・美術倶楽部	三曲2月
	2	7	小野、箏曲振興期成同盟会の請 願のため上京			三曲2月
	5	5	関西音楽指針会	小野清友・林天留・井上志楓他 菊沢松風	岡山市公会堂	三曲5月,6月
	10	27	関西音楽指針会	小野清友・林天留・猪木一友他	岡山市公会堂	三曲11月
	11	10	大道派 第一回箏曲演奏会	司会:大月忠道/社中他	岡山・高砂座	三曲11月,12 月
11	2	12	和気高女 箏曲演奏会	司会:大月忠道/同校箏曲部員	岡山・和気高女講堂	三曲3月
		23	片山女子技芸学校 箏曲温習会	司会:大月忠道/同校箏曲部員	岡山・片山校講堂	三曲3月
	4	26	関西音楽指針会 演奏会	小野清友・林天留他	岡山市公会堂	三曲5月
		29	圭琳社 演奏会	司会:虫明圭山/門下会員	岡山・高砂座	三曲5月
	5	10	大道派 つくし会	司会:堀道志都・大月忠道	岡山・大正館	三曲6月
		24	川端清井郷土演奏 箏曲大会	小野清友・今井・中能島・川端他	岡山市公会堂	三曲6月
	10	25	岡山竹塲会	黒沢瑠山・大月忠道	岡山市公会堂	三曲11月
		31	岡山医大邦楽部 演奏会	邦楽部尺八会員・大月忠道他	岡山市公会堂	三曲11月
	11	1	関西音楽指針会 演奏会	小野清友・林天留・井上志楓他	岡山市公会堂	三曲11月,12 月
		1	当道音楽会岡山県支部 演奏会	司会:小山加代野/門下会員	岡山・高松町高松倶楽 部	三曲11月,12 月
		28	大道派 第二回演奏会	司会:大月忠道	岡山市公会堂	三曲12月
12	2	13	和気高女箏曲部 演奏会	司会:大月忠道	岡山・和気高等女学校	三曲3月
		20	片山技芸校箏曲部 演奏会	司会:大月忠道	岡山・片山校講堂	三曲3月
		27	就実高女・岡山実科 姉妹会	司会:大月忠道	岡山・就実高女講堂	三曲3月
	5	2	関西音楽指針会 演奏会	小野清友・渡谷琴恵・秋山千代子	岡山・大正館	三曲5月,6月
		8	大道派 常盤会	司会:小西道登志	岡山・大正館	三曲6月
		26	岡山医大 三曲演奏会	同校尺八部・絃:大月忠道	岡山医大大講堂	三曲6月
	11	2	岡山医大 邦楽演奏会	虫明圭山・大月忠道	岡山市公会堂	三曲11月,12 月
13	2	13	和気高女箏曲部 演奏会	司会:大月忠道	岡山・和気高女講堂	三曲2月
14	2	18	和気高女 箏曲界	司会:大月忠道	岡山・和気高女講堂	三曲3月
	5	27	箏曲会聯盟 演奏会	大阪菊原・東京越野・岡山小野	福山市公会堂	三曲5月,6月
	6	25	大道派 演奏会	司会:大月忠道	岡山・天瀬東町本部	三曲7月
	10		関西音楽指針会 箏曲演奏会	小野清友	岡山・医師会館	三曲11月
		22	大道派 箏曲演奏会	主催:小野芳子・大月忠道	岡山・牧石小学校	三曲11月
	11	25	日本当道大道派 演奏会	司会:大月忠道	岡山市公会堂	三曲12月
15	5	26	大道派 温習会	司会:大月忠道	岡山・天瀬東町本部	三曲6月
	10	20	箏曲大道派 三典会	司会:難波道典・大月忠道	岡山・三友寺客殿	三曲10月
	12	8	大道派 箏曲会	司会:大月忠道	岡山・天瀬大道派本部	三曲12月,16 年1月
16	3	1	和気高女箏曲部 演奏会	司会:大月忠道	岡山・和気高女	三曲3月,4月
	5	19	鏡後慰安 箏曲演奏会	主催:川上定子・大月忠道	岡山・井原町国民学校	三曲5月

		20	大道派 箏曲演奏会	大月忠道	岡山・笠岡町高女講堂	三曲5月	
		25	大道派 箏演奏会(箏曲温習会)	大月忠道/黒沢場山他	岡山・大道派本部	三曲6月,楽報385	
	9	7	故葛原勾当追悼 演奏会	小野清友/虫明・橋本・藤原・武縄(林天留・大月・小野他)	岡山・後楽園鶴鳴館	三曲9月,10月,楽報389	
	11	16	関西音楽指針会 秋季演奏会	虫明圭山・阿部角山・久山都好	岡山・元音楽会館	楽報391	
		23	大道派 箏温習会	大月忠道	岡山・天瀬東町本部	三曲12月	
	17	2	28	和気高女 第十三回箏曲演奏会	司会:大月忠道/黒沢場山・武縄雀山	岡山・和気高女	三曲3月,楽報395
		4	12	邦楽演奏会	土倉秀寶・井上弘道・渡谷琴恵	岡山・後楽園鶴鳴館	三曲4月
		5	10	春季演奏会	小野清友	岡山・後楽園鶴鳴館	楽報397
			16	大道派演奏会(皇后宮御歌演奏会)	司会:大月忠道	岡山劇場	三曲5月,6月,楽報397
		7	5	小野清友宅同町内会主催演奏会	小野/虫明圭山	岡山・小野清友氏宅	楽報400
	11		8	箏曲作品発表会	小野清友・井上弘道・平尾小三	岡山・医師会館	三曲11月
			22	大道派 温習会	司会:大月忠道	岡山・西大寺町脇本部	三曲18年1月
	18	6	6	大道派 箏曲演奏会	司会:大月忠道	岡山・西大寺町本部	三曲6月

付記

本稿123頁に掲げた写真4の「新日本音楽大演奏会」については、これまで「新日本音楽の夕べ」と表記してきたが、(『人間社会環境研究』第33号掲載の拙稿他)、吉川英史『この人なり 宮城道雄傳』(改訂版、邦楽社、1990)掲載のプログラム写真(301頁)、ならびに『三曲』大正11年3月号掲載の「演奏会報告」記事によって、標記のように改めた。

謝辞

貴重な史料の借覧と活用をお許しくださった三世菊田歌雄先生、小野清友について種々ご教示くださった名畑伸子先生、資料閲覧等でお世話になった武蔵野音楽大学元教授：南さと子先生、東京藝術大学音楽学部教授：塚原康子先生に、厚く御礼申しあげます。また関西大学図書館、東京藝術大学附属図書館、岡山県立記録資料館、岡山県立図書館、大阪府立中之島図書館、当道音楽会事務局、都山流尺八楽会事務局、国立民族学博物館図書室の皆様にも、大変お世話になりました。併せて深甚の謝意を表します。